

平成 25 年度 第 5 回とやま建設フォトコンテスト

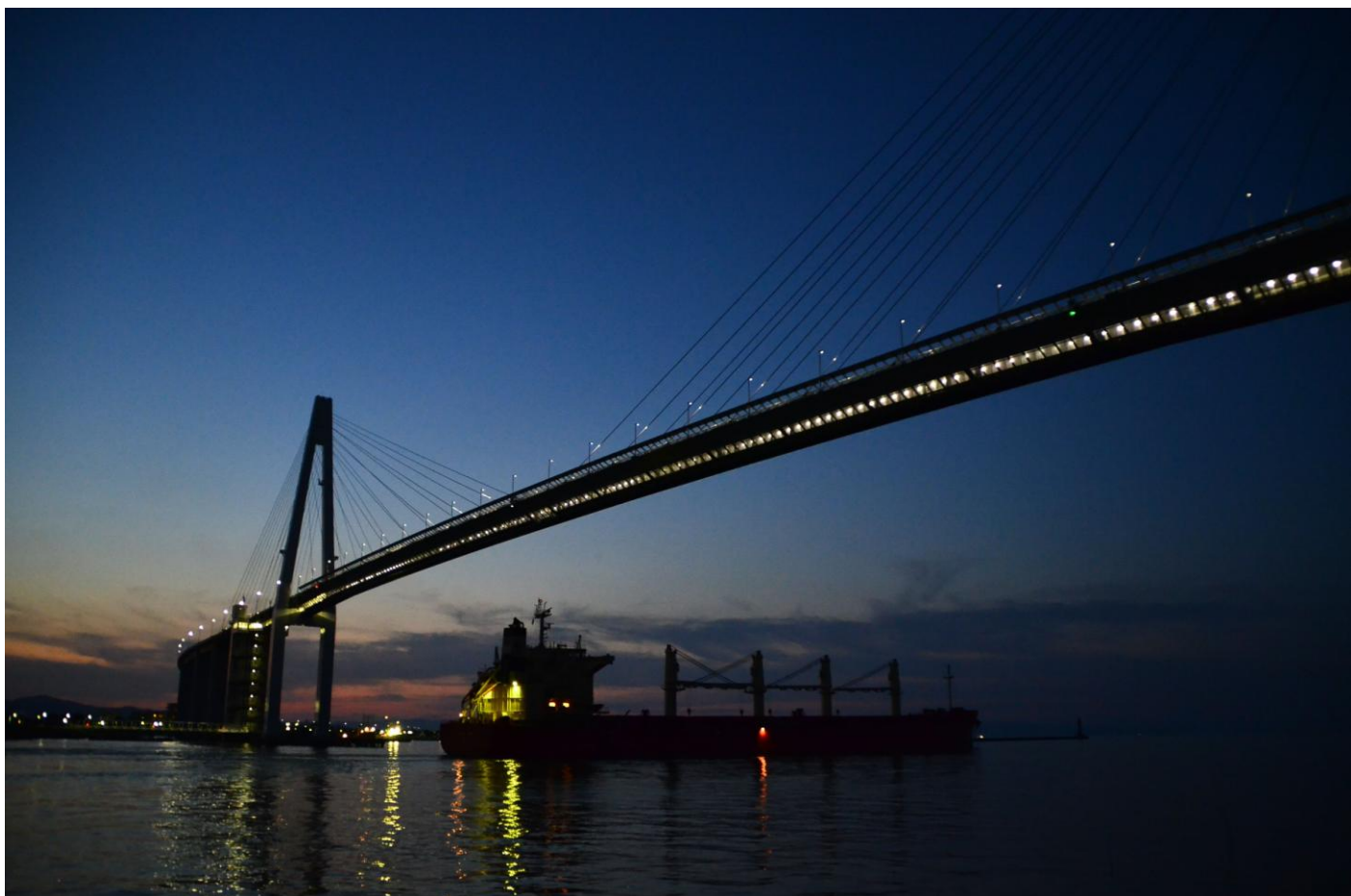
総評 今回は、第 2 回以来の 100 点を越える応募数がありました。

応募者は 4 才から 78 才までと非常に幅広い層からの応募であり、当コンテストの関心の高さ、拡がりを感じました。中でも中高生からの応募も多く、瑞々しい感性も感じられ、今後の展望を明るく感じています。

ただ、過去の入賞作と同じテーマでの応募も多く、作品の完成度から選ばざるを得なかったことが少しだけ残念でした。今後は新しい視点での作品をも期待致します。

審査委員長 堀田信一（富山県写真連盟委員長）

特選 【港夕景】 水野敬雄（撮影場所：新湊大橋）



第 4 回に続いての特選です。過去に何度も選ばれたテーマで悩みましたが、他作品との完成度、シンボリックな建造物ということで再度取り上げました。審査員、全員一致した意見です。

作品は遠くの山並みに漂う雲が夕陽で赤く染まり、また、手前の海面の映り込みが幻想的で、港の薄暮の情景がよく表現されています。





働く人部門賞【プロフェッショナルな男達】

五十嵐良一（撮影場所：富山市内）

抜けるような青空の中で、それぞれの持ち場で作業をしている5人の男達。高所の作業で緊張感の漂う場面で、作者はプロの男達を感じたのでしょう。

ハシゴの様な足場、つり下がった工具類がオブジェの様できれいです。造形的に表現されています。

物づくり部門賞【ツイン・タワー】

高畑訓（撮影場所：富山市内）

月明かりの夜、富山市の中心街での旧ビルの解体、そして新ビルの建造へ、と新しい夜明けへ向けて動き出している様子が伝わってきます。

天空に聳えるクレーン車の鮮やかな赤が印象的です。スケールの大きさに夢を感じさせます。



絆部門賞【冬道の安全確保】

平野稔（撮影場所：富山市内）

雪の朝、大きな除雪車、オレンジ色の車体が印象的です。県民の足、暮らしを守るため朝早くからの除雪作業の様子、雰囲気がよく出ています。

作者は他部門でもノミネートされるなど安定した実力をお持ちの方だと思います。



佳作【黎明新湊大橋】

杉山邦雄（撮影場所：新港大橋）



無駄のない、とてもシンプルな構図。

真中に太い支柱を置き、両側に細い線を放射状に配し、奥には立山連峰を配した構図には安定感がある。個人的には好きな作品だが、応募の趣旨から他の作品に上位を譲った。

佳作【Coming Soon!】

吉村瑛治（撮影場所：富山駅）



来年3月に開通する北陸新幹線。そういう意味では、今が旬のテーマ（今はもっと工事が進んでいます）富山駅とその周辺のビル群、奥には県のシンボル立山連峰を配し新幹線の工事風景を取り入れた、安定した構図。

入賞者では一番若い14才（中学生）、若い人の感性を大切にしたい。これを機に今後一層作品作りに励んでいただきたいと思います。

佳作【職人】

鍋谷真弓（撮影場所：富山市内）



一心不乱に仕事に打ち込む男性、真剣な表情の姿を的確にとらえた、力強い作品。見る人にせまってくる。作者の思いが見事に表現されている。

作中の男性、このような方達が日本の未来を創っているのだと、あらためて思い知らされました。

佳作【快晴】

梶原隆（撮影場所：富山市内）



橋の上から俯瞰した作品。広角レンズで、工事現場の広大さを表現した、スケール感のある作品。

トラックや重機がバランスよく配されている。手前の橋の影、青空に浮かぶ白雲がアクセントになって画面を締めている。

第5回とやま建設フォトコンテスト概要

募集時期 平成25年11月～平成26年1月
主催 (一社)富山県建設業協会
後援 富山県、富山県建産連、東日本建設業保証(株)富山支店
応募点数 127点
入賞作品 8作品

募集部門

- 働く人部門……建設業で働く人々が、いさいさと誇りを持って物づくりに携わる姿等をとらえた作品
- 物づくり部門……建造物や建設機械などを対象に、建設産業のスケールの大きさや重要性等をとらえた作品。
- 絆部門……除雪活動や防災対策など、建設業と地域のつながり、人々の安心安全を守るために担っている役割・活動をとらえた作品



一般社団法人
富山県建設業協会